
鶴崎駅前広場 整備基本計画

【概要版】

令和7年4月
大分市



はじめに

1. 計画策定の背景と目的

現在、鶴崎駅周辺の東西を結ぶ国道 197 号において、大分市東部地区の交通問題の解消を目指し、志村～乙津間の 4 車線化に向けた拡幅工事が進められています。これらの取組は、鶴崎駅周辺のまちづくりにも大きな変化をもたらすものと考えられます。このような環境の変化を好機と捉え、鶴崎地区の地区拠点にふさわしい魅力ある都市空間の再構築（リニューアル）が求められています。

このような背景を踏まえ、「鶴崎駅周辺整備基本構想」（以下「基本構想」という。）を策定し、豊かな歴史と自然環境、そして既存の都市基盤を最大限に生かしながら、課題に対応した適切なリニューアルを進めることで、次世代を担う子どもたちやその親世代を含む多世代が豊かに暮らしていくためのまちを目指し、実現に向けた具体的な施策を順次展開していくこととしています。

「鶴崎駅前広場整備基本計画」は、この基本構想に基づき、市民、行政、まちづくりの専門家等が協働して、鶴崎駅前広場と県道鶴崎停車場線の整備方針や整備計画を策定することを目的としています。

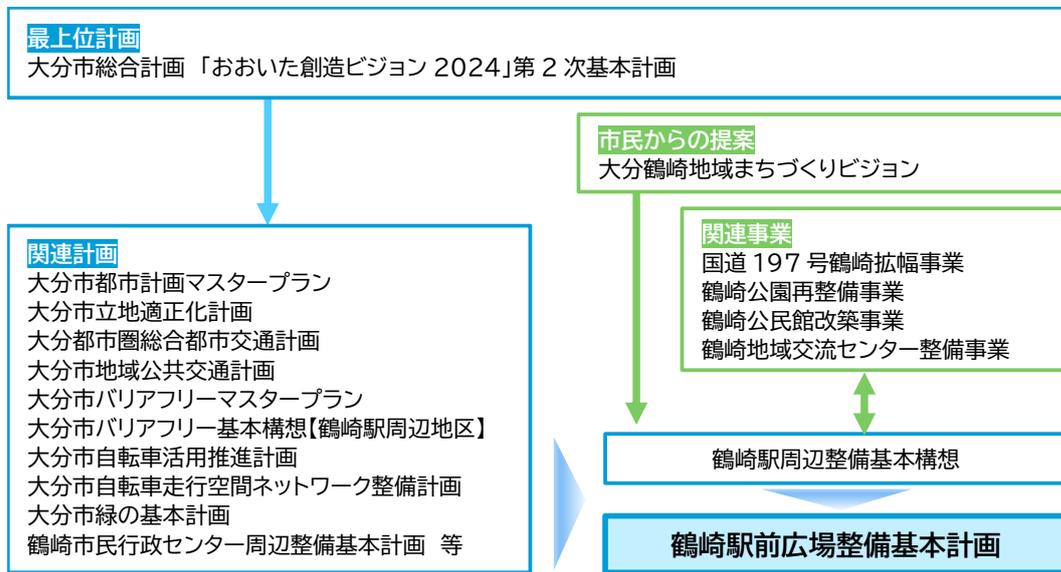


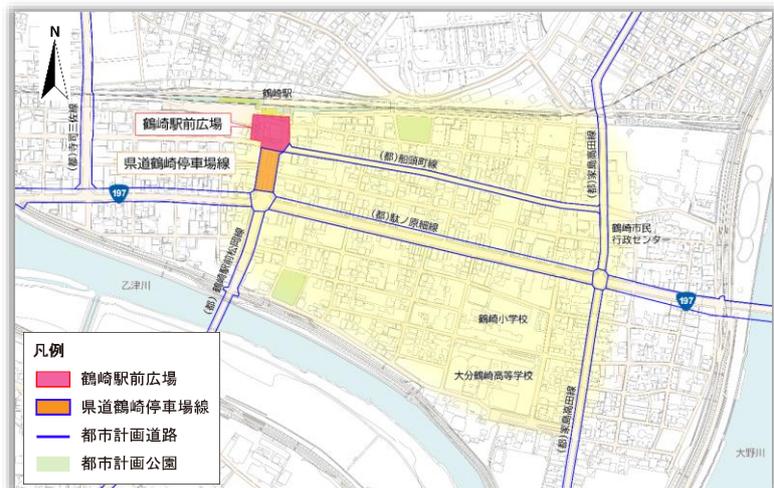
図 計画の位置づけ

2. 計画の対象

本計画の対象は、鶴崎駅前広場および県道鶴崎停車場線とします。

なお、鶴崎駅前広場は、1955（昭和 30）年 12 月 24 日に都市計画決定された交通広場であり、計画面積は 3,500m²となっています。

また、基本構想で展開される他の取組が密接に関連することから、本計画は鶴崎駅周辺も含む広域的な視点から市民ニーズに対応するものとします。



1. 鶴崎駅周辺の概況

1-1. 鶴崎駅周辺を取り巻く状況

(1) 人口動向

- 2015（平成 27）年の鶴崎地区の総人口は 7.6 万人で、本市全体の人口の約 15.8%を占めています。
- 鶴崎校区における 2024（令和 6）年の人口は 7,418 人であり、近年減少傾向にあります。少子高齢化が進行していることが伺えます。

(2) 交通環境

- 鶴崎駅周辺の道路ネットワークは、本市の東西を結ぶ国道 197 号が幹線となっています。
- 「中鶴崎二丁目交差点」と「鶴崎駅入口交差点」が主要渋滞箇所となっています。

(3) 土地利用の状況

- 空き地や駐車場などの低・未利用地※1が多く存在しています。

(4) 建物用途の状況

- 国道 197 号沿道には商店街が形成されており、商業施設や店舗併用住宅などが建ち並んでいます。
- 鶴崎市民行政センターをはじめ、公民館や学校、病院などの文教厚生施設も多く立地しています。

(5) 都市機能の立地状況

- 鶴崎市民行政センターや鶴崎公民館、消防署、警察署などの公共施設も充実しています。
- 鶴崎公園は、広場や遊具、東屋などが設置されており、住民から親しまれています。

(6) 歴史的資源の状況

- 鶴崎駅周辺は、鎌倉時代以降、大友家、加藤家、細川家の領地を経て、明治維新以降は町村制施行により、鶴崎町としての歴史を刻んできました。

(7) 法規制の状況

- JR 鶴崎駅の南側を中心に商業地域が指定されており、その他は主に第 1 種住居地域※2が指定されています。

(8) ハザードエリアの状況

- 鶴崎駅周辺のほぼ全域が洪水浸水想定区域（想定最大規模※3）となっており、洪水時には 3～5m の浸水（2 階の屋根まで浸水）が想定されています。
- 南海トラフを想定震源とする地震による予想浸水深は、鶴崎駅周辺の西側や鶴崎公園の一部で 0.5m 未満となっています。

※1 低・未利用地

利用されていない土地や、利用が低い土地を指す。

※2 第 1 種住居地域

住居の環境を守るための地域。3,000 m²までの店舗、事務所、ホテルなどが建てられる。

※3 想定最大規模

1000 年に 1 回程度の発生が想定されている降雨規模（想定し得る最大規模の降雨）。1000 年毎に 1 回発生する周期的な降雨ではなく、1 年の間に発生する確率が 1/1000（0.1%）以下の降雨のこと。



① 駅舎
駅舎内に「駅かふえ」というカフェがあります。



② 月極駐車場入口
JR 貨物が所有する駐車場出入口は、駅前広場に接続されています。



③ タクシー乗降場
タクシー乗降場は4台分あります。



④ 鶴崎駅駐輪場(駅前)
利用率の高い駐輪場です。
(駐輪台数 246 台)



⑤ 鶴崎駅前交差点
交差点の面積が大きく、走行経路が複雑です。



⑥ 彫刻(作品名:鶴崎踊り)
設置年月 昭和 52 年 11 月。本町土地
区画整理事業の竣功記念として建立。



⑦ 彫刻(作品名:鶴崎踊り記念碑)
設置年月 昭和 55 年 8 月



⑧ 市道西鶴崎 10 号線
西側方面への一方通行の道路です。



⑨ バス降車場
乗車場はなく、降車のみとなります。



⑩ 県道 208 号(鶴崎大南線)
西側の一部が自転車道の構造となっています。



⑪ ベンチ
外観は古いですが、頑丈な作りのベンチです。



⑫ 植栽樹
植物の生長に伴い、根元の石が崩れています。



⑬ 市道中鶴崎1号線
歩道がない2車線の対面通行の道路です。



⑭ 市道北鶴崎 3 号線
一部狭い歩道部分がある2車線の対面通行の道路です。



⑮ トイレ
古いトイレではありますが、身障者用のトイレが設置されています。



⑯ 鶴崎駅駐輪場(駅東)
(駐輪台数 498 台)



⑰ 駅前広場全景

1-3. 駅前広場の利用状況に関する実態調査

《調査日時》【朝】2023年11月21日(火) 6:00~9:00 【夕方】2024年7月9日(火)16:30~19:30

(1) 歩行者

- JR 鶴崎駅へ出入りする人数を見ると、朝は 1,111 人（入：663 人、出：448 人）、夕方は 1,238 人（入：457 人、出：781 人）となっています。
- 鶴崎駅駐輪場（駅前）への横断歩道では、朝は 238 人、夕方は 208 人となっており、駅利用者の約 2 割が横断しています。車の動線と交錯しているため、交通事故の発生が懸念されます。



(2) 自転車

- 鶴崎駅駐輪場（駅前）を利用するために、朝は 137 台、夕方は 133 台が駅前広場流入部の横断歩道を横断しており、自動車の動線と錯綜している状況です。
- 鶴崎駅駐輪場（駅東）を利用する自転車は、朝が 152 台、夕方が 139 台となっており、駅前広場内において歩行者の動線と交錯している状況です。
- 駐輪場利用台数に関する統計データを見ると、令和 5 年度で鶴崎駅駐輪場（駅前）は 169 台、鶴崎駅駐輪場（駅東）は 135 台となっており、約 300 台が利用されています。

(3) 自動車

- 交差点から駅前広場への流入台数を見てみると、朝は 342 台、夕方は 278 台となっており、県道鶴崎停車場線からの流入台数が最も多くなっています。市道北鶴崎 2 号線から駅前広場への流入台数は、夕方の流入台数は朝に対して約 3 倍となっています。
- 自家用車による送迎は、朝が 164 人、夕方は 151 人となっており、駅前広場への流入台数の約半数を占めています。ピーク時には、送迎車両で混雑する状況（最大で 10 台程度）や駅前広場の流出部において滞留状況が確認されます。



(4) 自動車整理場

《調査日時》2024年10月1日(火) 7:00~19:00

- 駅前広場内に位置する自動車整理場（自家用車の短時間駐車場^{※4}）の利用実態調査では、12 時間で 57 台の利用が確認されました。総利用時間は 131 時間 28 分で、稼働率は 54.8% となっています。
- 駐車時間について見ると、短時間（20 分以内^{※5}）の利用が 25 台、長時間（21 分以上）の利用が 32 台となっています。
- 短時間の利用時間帯について見ると、16:00~19:00 の時間帯に 17 台と多くの利用が見られます。これは、送迎時における電車到着までの待機や「みどりの窓口^{※6}」の利用などが理由と考えられます。

※4 自家用車の短時間駐車場

駅を利用する方の送迎など、一時的な駐車が必要な場合に設置された駐車場。

※5 20 分以内の出庫は無料。

※6 JR 鶴崎駅の「みどりの窓口」の営業時間 16:00~19:00（2024年11月現在）

1-4. 市民意向の把握

(1) ワークショップ

本計画の策定にあたり、駅前広場に対する課題やニーズを把握するために、2023年12月から2024年3月にかけて、地域住民や駅利用者、高校生など幅広い年齢の方が参加するワークショップ※7を行い、多くのご意見をいただきました。

項目	日時	テーマ
第1回	2023年12月16日(土)	まちと駅との関係をつかもう!
第2回	2024年1月20日(土)	駅前広場の施設を考えよう!
第3回	2024年3月2日(土)	駅前広場のレイアウトを考えよう!



■ 駅前広場の現状に対する意見（抜粋）

トイレ・駅舎の リニューアル	トイレ	● トイレは利用者が多いため、リニューアルが望ましい。	● トイレの外観が汚れており清潔感がない。 ● 多目的トイレの入口が狭い。
	駅舎	● エレベーターが便利である。	● 入口の坂は車いす利用者にとって厳しい。
歩行空間の バリアフリー化	歩道	● 歩道のデザインが美しい。 ● 歩道が劣化し、タイルが割れている	● 歩道に屋根（シェルター）が欲しい。
駐車場・駐輪場 の再整備	駐輪場	● 駐輪場の奥側は不便で、駐輪されていない。	● 駐輪場名の看板が通行の妨げになる。
	駐車場	● 駐車場の場所が中央部のためもったいないと感じる。	
交通の円滑性	ロータリー	● 駐車場や駐輪場を移し、車道幅員を広げることが望ましい。	● タクシー停車中は車が通りにくい。
	信号	● 信号待ちが複数回にわたるため面倒に感じる。	● 駅前の信号の変わるタイミングが分かりづらい。
銅像等の活かし方		● 鶴崎の歴史や記念として銅像などが長い間残っているのが良い。	● 銅像は残しておきたい。 ● 現在の位置では活かされていない。
既存施設の リニューアル	案内板	● 案内板は祭りやスポットなど地域の特徴がわかりやすく、今後はサインージ化も検討すると良い。	
	公衆電話	● 公衆電話の利用者が多い。	● 駅舎周辺に移動したほうが良い。
	植栽	● イチョウがシンボリックで、雰囲気が良い。	● ギンナンが歩道に落ちており、臭いが気になる。
その他		● 駅の近くに飲食店が少ない。	● ゴミが多く、周辺が汚い。

※7 ワークショップ
まちづくりなどについて、様々な立場の人々が参加し、技術や知恵を寄せ合い、共同作業によって解決案を考えたり、提案を行うこと。

■ 県道鶴崎停車場線の現状に対する意見（抜粋）

イベントにも利用できる通行空間	<ul style="list-style-type: none"> ● 車道と歩道が広く、快適である。 ● 鶴崎踊や二十三夜祭など、多目的にイベントを開催できるようにすることが望ましい。 		
交通の円滑性	<ul style="list-style-type: none"> ● バスと JR のアクセスが悪い。 ● 信号の待ち時間が長く、特に高齢者にとって大変そうである。 		
景観に配慮した整備	樹木	<ul style="list-style-type: none"> ● 中央帯のクスノキがおしゃれである。 ● 大きなグリーンベルトと豊かな緑が感じられ、良い印象である。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 中央帯のクスノキはうっそうとしており、暗く感じる。 ● 鳥のフン害が問題である。
	ベンチ	<ul style="list-style-type: none"> ● ベンチが汚れている。 ● 座りたくなるような魅力的なベンチが欲しい。 	
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 柱の先端に鶴崎踊りのモニュメントが設置されている。 ● 街灯が少なく、暗い印象を与える。 	
通行空間のバリアフリー化	<ul style="list-style-type: none"> ● 横断歩道の信号に音声案内があり、親切である。 ● 点字ブロックがない箇所が存在する。 ● 段差が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 石の車止めでつぱりが邪魔に感じる。 ● 音の鳴る信号と鳴らない信号が混在している。 	
沿道の賑わい	<ul style="list-style-type: none"> ● 若者が入りやすい店や娯楽施設が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 空き地が多く、寂しい印象を与える。 ● コンビニなど店舗が必要である。 	
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 防災用のベンチ（かまどベンチ）の設置が必要である。 ● おむつ替えなどのスペースを設けるべきである。駅の近くに飲食店が少ない。 		

■ 鶴崎駅周辺の現状に対する意見（抜粋）

駅前広場周辺の賑わい	商店街	<ul style="list-style-type: none"> ● お店は多いが、入りづらいと感じる。 ● お店の駐車場がない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 街に人が集まるという感じが無く、駅も寂しく感じる。
	施設や設備	<ul style="list-style-type: none"> ● さまざまなイベントが開催できそうである。 ● 街灯が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 駐車場がない。 ● 学生が立ち寄れる施設が少ない
安全な通行空間の確保・バリアフリー化	市民センター付近	<ul style="list-style-type: none"> ● 段差が多い。 	
	(市)北鶴崎 3 号線	<ul style="list-style-type: none"> ● 歩道が狭く歩きづらい。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 電柱が邪魔で通りにくい。
	(市)中鶴崎 1 号線	<ul style="list-style-type: none"> ● 自転車が通りにくい。 	
	(市)西鶴崎 9 号線	<ul style="list-style-type: none"> ● 歩行空間が狭い。 	
	その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 全体的に車いす利用者にとって危険だと思う 	
景観に配慮した整備	(市)中鶴崎 1 号線トイレ付近	<ul style="list-style-type: none"> ● トイレが汚れており、利用づらい。 ● 自転車が入りづらく、停める場所もない。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 木の実が落ちており、汚れている。
駅北との関係		<ul style="list-style-type: none"> ● 駅北側へのアクセスが遠回りになる。 	

(2) 鶴崎駅周辺整備推進協議会

本計画の策定にあたり、2023年12月から2024年11月にかけて、地元自治会や関係団体の代表者など25名から構成された鶴崎駅周辺整備推進協議会〔鶴崎駅前広場分科会〕(以下「推進協議会」という。)が開催され、鶴崎駅前広場や県道鶴崎停車場線に必要な施設や機能などについてのご意見をいただきました。

下記に、推進協議会より出された要望内容について整理します。

■ 鶴崎駅前広場に対する要望

利便性の向上	南北自由通路の設置 ➤ 鶴崎駅の跨線橋を北側に延長し、南北市街地をつなぐ自由通路を設置してほしい。その際、北側にも駐輪場、ロータリー及び北側市道からのアクセス道路を設置するとともに、改札を駅のホームに移設するなど、南北市街地を自由に往来できるようにしてほしい。
	レンタサイクルの設置 ➤ 豊かな歴史文化施設や大野川・乙津川の自然環境、商業施設等といった鶴崎の多くの魅力に接する機会がより多く得られるよう、行動範囲が広いうえ駐車場の心配も不要なレンタサイクルを設置してほしい。
バリアフリー化	観光案内板のリニューアル ➤ 鶴崎駅東側にある観光案内板を、駅利用者等の目に留まりやすい位置に移設してほしい。その際、QRコードの掲載を含めた内容の見直し及び音声案内の設置も併せて行ってほしい。
交通の円滑化	交差点改良 ➤ 鶴崎駅前の東側交差点(駅から公道に出る側)の路面標示が分かりにくいいため、右側車線も直進できるようにしてほしい。
歩行空間の確保	通行スペースの確保、イチョウの撤去 ➤ 歩行者や車いす利用者、自転車などの通行スペース等を確保するため、鶴崎駅東側にあるイチョウの木を撤去してほしい。
既存施設の改修	トイレの改修 ➤ 鶴崎駅東側にあるトイレを、多くの方が利用する鶴崎地区の玄関である鶴崎駅前に景観上も衛生上もふさわしいものに改修してほしい。その際、外観は鶴崎をイメージできるようなデザインにしてほしい。
	照明等の増設 ➤ 暗い時間帯の利用者も多く、防犯等の観点から街灯を増設してほしい。
	観光案内板のリニューアル

■ 県道鶴崎停車場線に対する要望

バリアフリー化	舗装材の検討 ➤ 駅前の清潔感や景観の魅力向上のため、歩道のレンガの改修を行ってほしい。
歩行空間の確保	中央緑地帯の撤去、歩道の拡幅 ➤ にぎわいのスペース確保のため、県道鶴崎停車場線中央の緑地帯を撤去し、上下線の歩道を拡幅してほしい。その際、上下線の歩道の幅員は、国道197号鶴崎駅入口交差点や市道の鶴崎駅前交差点とのバランスを考慮してほしい。
既存施設の改修	照明灯の増設 ➤ 暗い時間帯の利用者も多く、防犯等の観点から街灯を増設してほしい。
	ベンチの改修 ➤ 駅前の清潔感や景観の魅力向上のため、ベンチの改修を行ってほしい。

2. 鶴崎駅周辺の課題

2-1. 問題解決とニーズへの対応に向けた視点

JR 鶴崎駅は、通勤や通学利用者をはじめ、来訪者にとっての玄関口となっており、多くの人々が行き交う場としての役割を担っています。

「第1章 鶴崎駅周辺の概況」では、現地調査やワークショップ、推進協議会などから得られた鶴崎駅周辺に関する意見として、バリアフリー※8の観点からの整備、送迎スペースや駐車場の整備、交通の円滑化に関する意見、さらには歴史や緑を踏まえた雰囲気づくりやイベント利用に関する意見がありました。

これらを踏まえ、『視点① 利便性・安全性の向上（交通空間※9）』および『視点② 魅力ある施設や雰囲気づくり（環境空間※10）』の2つの視点から、各種問題点・ニーズおよび課題について整理します。

2-2. 鶴崎駅周辺における解決すべき課題

The map shows the station area with various landmarks and transportation routes. Three colored boxes highlight specific issue areas:

- Red Box (Station Vicinity):** Focuses on improving convenience and safety, and creating an attractive atmosphere. Issues include bicycle lanes, station-to-station connections, parking, and facility improvements like streetlights and toilets.
- Yellow Box (Station Plaza):** Focuses on accessibility and safety, and creating an attractive atmosphere. Issues include barrier-free plaza, parking lot improvements, road layout, greenery, and facility reuse.
- Blue Box (Prefectural Parking Lot):** Focuses on accessibility and safety, and creating an attractive atmosphere. Issues include barrier-free access, bus accessibility, open space utilization, greenery, and attractive shops.

※8 **バリアフリー**
だれもが社会生活をしていく上で、障壁（バリア）となるものを取り除くこと。

※9 **交通空間**
交通結節点（複数あるいは異なる交通手段の接続が行われる場所）としての機能を担う空間。

※10 **環境空間**
都市の広場としての機能を果たすための空間。

3. 駅前広場の整備方針

3-1. 整備方針

基本構想における鶴崎駅周辺地区の将来像である「伝統と文化を感じる 多世代のための暮らしの拠点」や、ワークショップおよび推進協議会の意見などを踏まえ、鶴崎駅周辺の基本理念を以下のように定めます。

(1) 基本理念

伝統と文化を育む 交流・交通拠点

駅前広場の主要な機能として安全・円滑・便利な空間を確保した上で、鶴崎の伝統や文化を人々に伝えつつ、賑わいを生み出すような交流拠点を創出します。

(2) 整備方針

駅前広場を構成する「交通空間」と「環境空間」に関連する整備方針として、「第2章 鶴崎駅周辺の課題」で示した二つの視点を柱とします。

■ 利便性・安全性の向上（交通空間）

- ・ 特に混雑する朝夕の現状を踏まえ、安全性と利便性を両立させた空間づくり

■ 魅力ある施設や雰囲気づくり（環境空間）

- ・ イベントにも対応できる賑わいのある空間づくり
- ・ 緑や歴史を活かした雰囲気の良い空間づくり

4. 駅前広場の整備計画

4-1. 整備の方向性

今後の駅勢圏^{※11}の人口動向や鶴崎駅周辺のまちづくりの動向を考慮し、現在の駅利用者数を維持することを目標とします。

これに基づき、将来〔2045（令和27）年〕の駅前広場利用者数を3,900（人/日）と設定します。

（1）交通空間に導入する施設

駅前広場の実態調査や大分市内の鉄道駅の事例をもとに、最低限必要な施設規模を以下のとおり設定します。

交通処理機能		現況	計画
バス	乗降スペース	-	1台
	乗車スペース	4台	1台
タクシー	降車スペース		1台
	待機スペース		3台
自家用車	乗降スペース	-	2台
	駐車スペース	21台	20台
自転車・バイク	駐輪場 (駅前・駅東)	744台	744台

（2）駅前広場の環境空間に関する施設計画

ワークショップや推進協議会の意見を踏まえ、導入施設を以下のとおり設定します。

環境空間	施設・機能
交流機能	広場、ベンチ など
景観機能	樹木、銅像 など
サービス機能	案内板、公衆トイレ ^{※12} 、 公衆電話 ^{※13} 、シェルター、時計、 レンタサイクル など
防災機能	オープンスペース ^{※14}

（3）配置計画

全体配置計画において検討すべき事項としては、周辺街路と広場の関係、広場の形状、交通空間・環境空間の配置などがあります。JR 鶴崎駅の特長や、広場を利用する人々と車両の交通量および利用方法などを考慮し、交通の安全性と円滑性、鶴崎地区の玄関口としての景観形成や環境空間づくりとの調和が図れるように計画します。

① 空間配置

交通結節機能を担う交通空間と、都市の広場としての役割を果たす環境空間を配置します。

② 歩行者・自転車の動線

歩行者の動線^{※15}は、JR 鶴崎駅と県道鶴崎停車場線をつなぐ主要動線を中心に構成し、東西からのアクセスも考慮します。また、自家用車、バス、タクシーの乗降スペースなどの滞留空間と交差しないように配置します。

※11 駅勢圏

駅を利用する需要の存在が期待できる地理的な範囲のこと。

※12 駐輪場および公衆トイレの再整備や配置は、JR九州との協議が必要である。

※13 公衆電話については、現在設置されているものを引き続き活用する。

※14 オープンスペース

公園などの公共施設において、建物などによって覆われていない土地の総称。

※15 動線

人や物が移動する際の経路や方向のこと。

③ 自動車の動線計画

自動車の動線は、県道鶴崎停車場線からの流入・流出^{※16}を主要動線とし、駅前広場内は右回りの一方通行のロータリー形状とします。なお、既存道路の自動車動線については、環境空間の利用形態や周辺の住環境を考慮した動線とします。

④ 整備のポイント

駅前広場の施設配置は、交通結節機能や交流機能を考慮した施設を導入し、以下に示す整備ポイントを踏まえて、利用者の利便性を重視した計画とします。

また、県道鶴崎停車場線についても、駅前広場との一体的な空間に配慮し、利用者の利便性を考慮した計画とします。

■鶴崎駅前広場

交通空間	
バリアフリー化	・ 段差の解消や幅員の確保など、安全で快適な通行空間の整備
駐輪場・駐車場の整備	・ 駐輪場や駐車場は、動線や利便性に配慮した配置 ・ JR 鶴崎駅への送迎車両のための短時間駐車場の整備
乗降スペースの整備	・ 自家用車、タクシー、バスへの乗り換えのための整備 ・ 障がい者用乗降スペースは、駅に近い位置に配置 ・ 駅改札から近く、見通しの良い位置に配置
交差点の改善	・ 鶴崎駅前交差点のくいちがい交差を緩和する
将来を見据えた配置	・ 自由通路の配置に配慮した配置計画
環境空間	
広場空間の確保	・ 日常的な憩いや災害時など、多目的に利用できる空間の確保 ・ ベンチなどの設置による、集い・語らいのスペースの確保
景観面への配慮	・ 一体的なデザインの統一などによる配慮

■県道鶴崎停車場線

通行空間の確保	・ 歩行者、自転車、自動車の通行空間の分離 ・ 歩道の幅員は、歩行者などが安全に通行できる幅員とする
交差点の改善	・ 鶴崎駅前交差点のくいちがい交差を緩和する
植栽帯 ^{※17} の確保	・ 植樹による景観の改善および延焼防止のための空間の確保
イベント空間の確保	・ イベントなどに利用できる一時的な空間の確保

※16 流入・流出

人や車両が特定のエリアに入ること及び出ること。

※17 植樹帯

専ら良好な道路交通環境の整備、沿道における良好な生活環境の確保または都市部の良好な公共空間の形成という目的を持って設置されるもの。

(2) 断面計画（県道鶴崎停車場線）

道路構造令に基づき横断面構成を下図に示します。

中央帯※18の植栽空間を再整備し、一時的なイベントに活用できるスペースを創出するとともに、歩行者と自転車の通行空間を分離することを目指します。

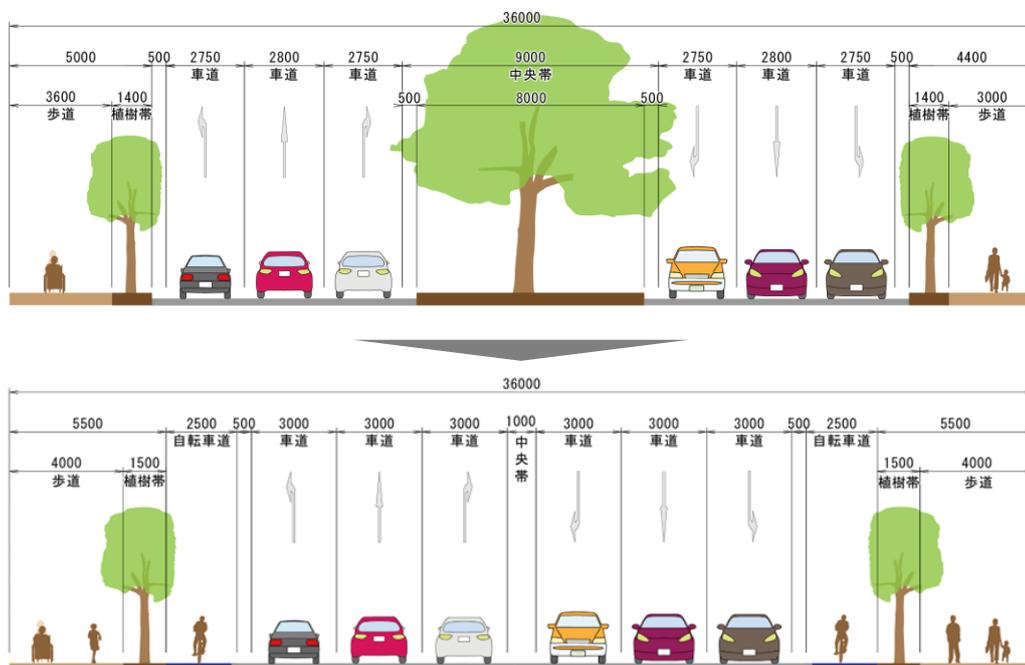


図 標準断面（上：現況 下：計画）

■イベント時の利用イメージ



※本図は、整備のイメージを示したものであり、今後の詳細設計や関係機関との協議により、実際の内容は本イメージと異なる場合があります。

※18 中央帯

道路を往復の方向に分離するために設けられる帯状の道路の部分。

5. 計画実現に向けて

5-1. 空間の確保について

(1) 鶴崎駅前広場の植樹帯

駅前広場に植えられているイチョウについては、大量の落葉や銀杏によるにおいや汚れが課題となっており、さらに駐輪場やトイレ前の通行空間を圧迫しているため、大木であるが故に様々な問題を抱えています。

今後、地域住民との合意形成^{※19}を図った上で、イチョウを含む植樹帯の再整備を検討します。



(2) 県道鶴崎停車場線の中央帯

県道鶴崎停車場線の中央帯に植えられているクスノキについては、張り出した枝が建築限界^{※20}に影響を及ぼす恐れがあるため、定期的な剪定が必要です。また、視認性を阻害する中央帯の草刈りなどの維持管理面の課題があり、鳥の糞害や騒音なども問題もあります。

本計画においては、駅前広場のイベントスペースが限られているため、県道鶴崎停車場線を一時的なイベントスペースとして活用できるよう、フラットな構造が望ましいと考えています。

そのため、今後、地域住民との合意形成を図った上で、クスノキを含む中央帯のあり方について検討します。



5-2. 南北自由通路の検討について

JR 鶴崎駅の南北を結ぶ自由通路については、既存の跨線橋^{※21}の構造確認や改札機能の位置、通路の接続位置など、以下の課題を検討する必要があります。

- ① 既設の跨線橋の設計基準の確認
- ② 駅北側エリアのアクセス道路などの整備を検討

今後は、利用実態調査など、自由通路の必要性や機能性についての検討を行います。

※19 合意形成

皆が納得できるように創意工夫をしながら、多様な意見をまとめること。

※20 建築限界

道路上で車両や歩行者の交通の安全を確保するために、ある一定の幅と高さの範囲内には障害となるような物を置いてはいけないという空間確保の限界。

※21 跨線橋

鉄道線路を超えるためにその上かけ渡した橋。

5-3. 鶴崎駅周辺の各取組の実施時期のイメージ

基本構想の将来像である「伝統と文化を感じる多世代のための暮らしの拠点」の実現に向けた取組を下記に示します。鶴崎駅前拠点をはじめ、短期の取組みを先行して実施し、さらに中期・長期的な取組に波及させるよう事業の推進を図ります。

本市は、協働のまちづくりを推進する中で、各取組に必要な支援に努め、地域住民や関係者の意向を最大限に尊重します。また、実現に向けて、市の庁内体制を構築するとともに、関係機関との調整を行います。

	取組内容		取組時期		
			短期	中期	長期
鶴崎駅周辺全域 (共通)	鶴崎駅周辺全域	エリアマネジメント、 防災・減災に向けた取組	■■■■■		
鶴崎駅前拠点	鶴崎駅前広場	JR 鶴崎駅前広場	■■■■■		
	県道鶴崎停車場線	県道鶴崎停車場線 ((都)鶴崎駅前松岡線)	■■■■■		
鶴崎コミュニティ拠点	鶴崎市民行政センター 周辺	鶴崎市民行政センター、 鶴崎公民館、鶴崎公園	■		
鶴崎コミュニティ軸	市道北鶴崎 3 号線	市道北鶴崎 3 号線 ((都)船頭町線)		■■■■■	
	市道中鶴崎 1 号線	市道中鶴崎 1 号線		■■■■■	
広域連携軸	国道 197 号	国道 197 号沿線	■■■■■		
地域連携軸	市道鶴崎・三佐線 ((都)寺司三佐線)	市道鶴崎三佐線 ((都)寺司三佐線)			■■■■■
	県道鶴崎大南線 (別保橋)	県道鶴崎大南線 ((都)鶴崎駅前松岡線)			■■■■■
鶴崎歴史とみどりの ネットワーク	回遊ネットワーク	市道南鶴崎 6 号線 (空桑思索の道) 乙津川右岸緑地 など		■■■■■	
	街区公園	羽佐間児童公園、新堀公園、 東浦公園、岩丸児童公園、 伴出公園	■■■■■		

6. 鶴崎駅前広場整備基本計画策定委員会名簿

氏名	所属団体・役職	備考
亀野 辰三	独立行政法人 国立高等専門学校機構 大分工業高等専門学校 名誉教授	委員長
小野 治子	公立大学法人 大分県立看護科学大学 講師	
吉村 充功	学校法人 文理学園 日本文理大学 教授	
渡邊 博子	国立大学法人 大分大学 教授	



鶴崎駅前広場整備基本計画

【概要版】

大分市 都市計画部 まちなみ企画課

2025（令和7）年4月 策定